

ふれ合いとあたたかい抱きしめが乳児期の信頼関係を築く

橋本 武夫 【聖マリア学院大学教授・医療福祉研究所所長】

乳児期は、親子の基本的信頼関係(愛着)を作る土台の時期

【これまでの研究から分かること】

(ア) 子育ての基本的な過程をしっかり理解することが重要である。

- ・乳児期の育児の基本は“抱いて、語りかけて、おっぱい”。これを満たすことで、愛着＝基本的信頼関係が形成され、愛の原点が育まれる。
- ・乳児期の父親の育児参加の本当の意味は、お母さんを精神的面も含め、支え、Hugする(抱きしめる)ことである。

(イ) 母乳育児は母乳とミルクの物質的な差よりも授乳行為そのものが母性行動の発現に働き、子どもとの信頼関係に結びつく。

- ・乳首を吸われることにより、プロラクチン、オキシトシン(母性愛ホルモン)の分泌が子どもを生んだ女性を母に育てる。
- ・母乳育児により愛着形成は強まるが、母乳をやれないお母さんでも自信をもって楽しい育児ができるように、その支援を忘れてはならない。

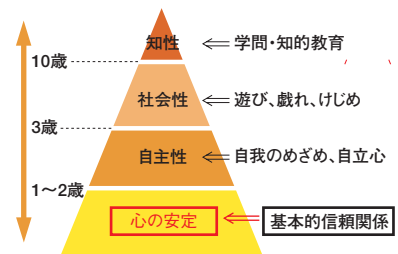
(ウ) 人間の発達には前頭葉(情緒、感情、我慢、善悪の判断を司る)が深く関わり、人と人とのふれ合い、そして戯れ、遊びにより発達する。

- ・乳児の最高のオモチャは、お母さんの百面相。読み聞かせも、子どもの前頭葉の発達に大きく関わる。
- ・幼稚園での遊び、戯れ、多くの子どもとのふれ合いなどの体験は、前頭葉の発達を促す。けがを怖れて、幼稚園で子どもが遊ばせられなくなっているのは残念なこと。

(エ) 子どもの発達過程において育児の4層構造の理解が重要である。

- ・年齢にあわせた子育ての基本(図参照)を理解しておくことが大切である。

子育ての基本(人格形成の過程)
一朝日が一日を示すごとく、子どもは人間を示す



子育て中の家族を社会全体で支えよう ～ゆとりある「待ち」の子育てが子どもを伸ばす～

内田 伸子 【お茶の水女子大学副学長】

遊ぶ、話す、読み聞かせ—
子どものために時間を割く努力が、
認知発達・社会的適応に影響

【これまでの研究から分かること】

(ア) 母親の暖かく受容的な態度が子どもの発達によい影響をもたらす。

- ・子どもと過ごせる時間が短くても、一緒に遊び、会話し、絵本を読み聞かせるなど親子の心込めての関わり合いがあるなら、子どもの認知発達や社会性の発達は促される。
- ・命令口調で知識や言葉を教え込もうとすると、子どもの関心や集中力を損なわせてしまう。
- ・幼児期に漢字教育を受けても、小学校では教育の効果は消えてしまう。

(イ) 父親、祖父母、社会の支えを実感している母親は子育てバーンアウト(燃え尽き症候群)にかかりにくく、ゆとりある子育てをしている傾向がある。

- ・ゆとりある子育ては3歳代の言語発達にも好ましい影響を与えている。

◆母も父も子育てを楽しめるよう、家族で過ごす時間を取り戻そう。幼い子どもを持つ父母の就労形態を変え、フレックスタイムや在宅勤務など多様な働き方を社会全体で整備し、支えることが大事である。

200の文字を教えるよりも100の「なんだろう?」を育てたい
幼児用各テストと小学校での各テストとの相関
東洋他(1995)

